県外派遣報告書

審判員名	今野　和昭	所属　　実業団連盟
大　会　名	平成27年度　全日本実業団バスケットボール競技大会	
期　　間	平成27年9月12日（土）～14日（月）	
会　　場	深谷市総合体育館（深谷ビッグタートル）	
講　習　会	A級以上の者を対象に実施 ※講習会の対象ではないが、本県から私を含め濱、高橋（滝）、高橋（明）の4名が参加	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
9月12日	男女1回戦	深谷ビッグタートル
9月13日	男女2回戦、準決勝、順位戦、交流戦	深谷ビッグタートル
9月14日	男女3位決定戦、決勝	深谷ビッグタートル

講習会（講師：吉田正治氏、平育雄氏）

【講習会やミーティングで、印象に残った言葉】
・バイオレーションは間違えると間違った方に攻撃権を与えてしまうので、ゲームへのダメージが大きい。ファウルの判定が気になるかもしれないが、考え方を変えること。
・ショットに対してはそれ以外のプレーを見ようとしない。100%ショットを見極めることがレフェリーの仕事。バスケットは点を取り合うスポーツ、ショットの判定はミスしない。
・自分の責任エリアはどの範囲なのか、どのようにすればより見やすくなるポジションを取ることが出来るのか、研究すること。ハイポストのプレーはリードからは吹けないはず。トレイルの責任範囲は思っているよりも広いはず。
・安易にリードで右に行きすぎる傾向がある。右に行くということはボクシング・インを一時的に崩す恐ろしい行為。それでも右に行くべきシーンはある。どのタイミングなのかもっと研究すること。
・DF側がダブルチームを仕掛けた時に、プレーとして「勝っている」場面でもイリーガルなコンタクトを起こせば「ファウル」として取り上げるべき。審判が拠り所とするのはあくまでもルールブック。勝ち負けはルールブックに書いていない。
・よりゲームを素晴らしくするためには悪い手の使い方を整理すること。逆に言えば、リーガルなトルソーでのコンタクトはどんなに激しくてもやらせること。特にコンタクトが激しくなってきても中々笛を入れる決定打が無い場面では、手を使った瞬間が決定打になりえる。
・「全力を尽くす」とは何か。一生懸命やってプレーの全容が把握できないことではないはず。冷静さとセルフコントロールがなければ、レフェリーとして全力を尽くしているとは言えないはず。

実技

担当試合	期　日	9月13日	(男子)　女子	
	対戦カード	黒田電気大阪　　VS	ホジザキ	(主審)　副審
	相手審判	稲田　翔人 氏（東京）		

交流戦ながら、1回戦で関東の強豪（新生紙パルプ商事、日本無線）と接戦を演じたチーム同士の対戦であり、予想どおり僅差のゲームとなった。（最終スコア：黒田大阪60-63ホシザキ）

ミーティング内容　　主任　　濱　雄介 氏（関東）

一試合を通して判定に一貫性があった。
リードで、インサイドの接触について笛を「鳴らさない」ケースがあったが、判定をしたうえで「鳴らさなかった」のであれば問題はない。
トレイルで、ボールがあるところのスペースに注意を払いすぎなので、もう少し広い範囲（2対2を見るイメージ）を捉えられる位置取りを研究すべきである。

全体の感想

全国大会は初めての経験だったが、極度に緊張することもなく試合に臨むことができた。また、試合を壊さずに終わらせることができたので、責任は果たせたと思う。
今大会は地元開催ということもあり、割当については配慮があったものと自覚している。今後は実力で全国の割当をいただけるよう精進したい。

最後に

今大会の開催にあたり、事前の準備から様々な部分に気を配り、大会を運営していただいた関東実連及び埼玉実連関係者の皆様に感謝申し上げます。また、講師の皆様、各ブロック長及び審判の皆様、大変お疲れ様でした。